

セソール川崎京町ハイライズ

# 防火・防災マニュアル

平成 12 年 3 月

セソール川崎京町ハイライズ管理組合  
セソール川崎京町ハイライズ自治会

## 目 次

I 火災になったら	1
1. 早い通報、少ない損害	1
2. あわてず初期消火	2
3. 急いで避難、人命第一	3
4. 近くの火災に気づいたら	4
II 地震がきたら	5
1. まず身の安全を守る	5
2. あわてて外に飛び出さない	5
3. 火の始末	6
4. 万一、出火したら	6
5. 非常脱出口を確保する	7
6. 外出中に大災害にあったら	8
III 日頃の備えが大切	9
1. 家具をしっかり固定	9
2. 開き戸タイプの扉は、左右を連結	9
3. 落下の恐れのあるものには十分な予防措置を	10
4. 重いものも、動き出さないように固定	10
5. ガラスの散乱を防ぐために	11
6. バルコニーは大切な避難通路	11
7. ガス漏れしたら	11
8. 非常備蓄品、非常持出袋を用意する	12
9. 家庭防災会議の定期的開催	12

<資料>

避難経路

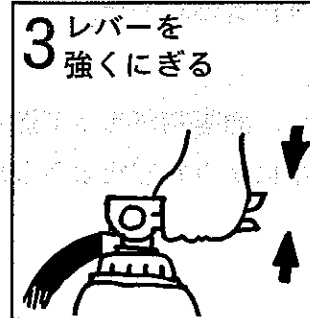
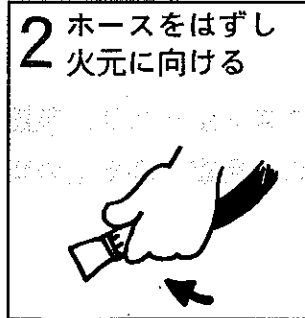
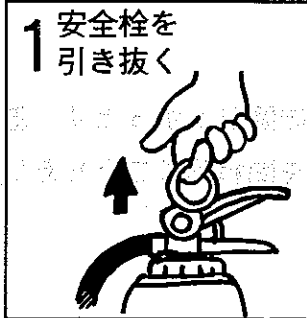
## 2. あわてず 初期消火

- 初期消火が決め手  
火事は、最初の5分で決まるといわれています。  
初期消火が人命や財産を守れるかどうかの分かれ道となります。
  
- 炎が天井に届くまでは、消火器で消火することができます。  
急いで人を呼んで、初期消火に努めましょう。
  
- 火災は3種類
  - ①普通火災：水で消火できる紙・布・木材の火災
  - ②油火災：てんぷら油や石油類の火災
  - ③電気火災：配電盤、電気機器（テレビ、コンセント等）の火災
  
- 炎や煙りにまどわされしないで、燃えているもの（火元）を確かめる。
  
- 消火器を持ってきて、できるだけ火元に近づけて消火する。  
日頃から家族で、消火器の場所および使い方を確認しておきましょう。
  
- 油火災・電気火災に水は絶対ダメ
  - ・油火災の場合、その火災のもとになったガス等の元栓を閉める。
  - ・電気火災の場合、電気のブレーカーを切る。
  - ・空気を遮断する
  - ・鍋のフタ・座布団をかぶせる
  - ・消火器（粉末）で2～3m離れた場所から消火する
  
- 油火災には、野菜を入れて消火するのが良いといわれていますが、これは誤りです。  
水分の多い野菜は瞬間的に油を飛散させ、炎を拡大させることとなり、かえって危険です。
  
- てんぷら鍋の火災には、濡らしたシーツや布をそっとかぶせると有効です。
  
- 粉末消火器を台所に用意しておきましょう。

## 消火器の使い方

### 使用方法

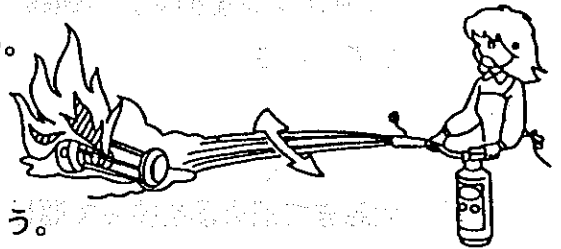
1. 消火器の上部より、黄色の安全栓を上引き抜きます。
2. ホース受けよりホースをはずし、ノズルを火元に向けます。
3. レバーを強くにぎると、ノズルより消火剤が放射されます。



- レバーをにぎり、作動させる力は約10kg必要です。力の弱い方は、消火器を床に置き、ノズルを火元に向け、上からレバーを強く押して使用してください。

### 消火のしかた

- 3m程度はなれた位置より、炎の下を手前から掃くようにノズルを左右に振りながら放射し、順次前方に進んで消火します。  
ホースをしっかり持って、操作してください。
- 消火器の使用方法は、普段からよく確認しておいてください。  
消火器に表示の使用方法、適応火災、放射時間、放射距離等を確認しておきましょう。



## 3. 急いで避難、人命第一

- 火が天井にまで燃え広がったら、または煙が室内に充満してきたら、もう手におえません。逃げおくれた人のないように、急いで、声を掛け合って避難しましょう。なお、身体の不自由な人やお年寄り、幼児は、火災が発生したら、すぐに避難させましょう。
- 玄関ドアは、防火扉となっています。必ず玄関ドアを閉めて、鍵をかけないで避難しましょう。
- 火は、窓が開いていると、そこから燃え広がってしまいます。延焼を防ぐため、窓を閉めて避難しましょう。
- 一度避難したら絶対に室内に戻らないこと。「持ち出すものを忘れた」などと引き返してはいけません。戻ろうとする人がいたら、はがいじめにしてでも絶対に阻止してください。

## < 重 要 >

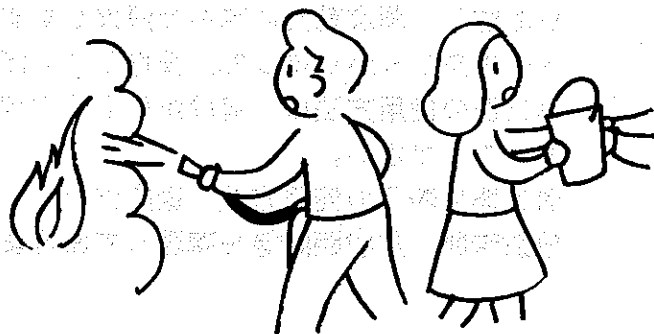
\*バルコニーは避難通路です。非常時には隣戸との仕切り板を破って避難してください。

\*仕切り板の前や避難ハッチの上および下に物置、物干しなどを置いていると避難できなくなります。絶対に置かないようにしてください。また、階段、踊り場も同様です。

\*万一、障害物があって避難できなかつたり、避難に時間がかかつたり、避難途中にケガをしたような場合、民事、刑事上の責任を問われることもあります。

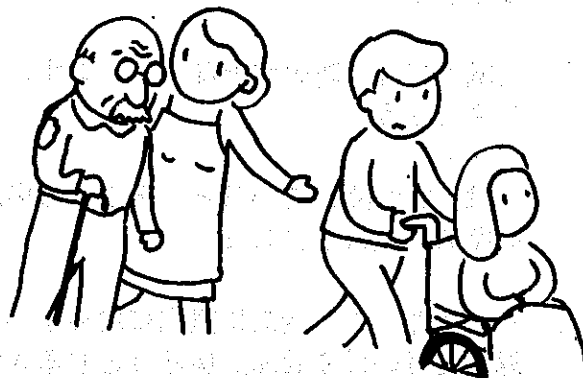
## 4. 近くの火災に気づいたら

- 隣近所の火事に気づいたら、  
119番 通報、管理センター  
(非常ボタンを押す) へ通報  
してください。



- 大急ぎで消火器を持って駆けつけ、協力し合って初期消火に努めましょう。

- 火元の室内に身体の不自由な人やお年寄り、幼児がいたら急いで助け出しましょう。

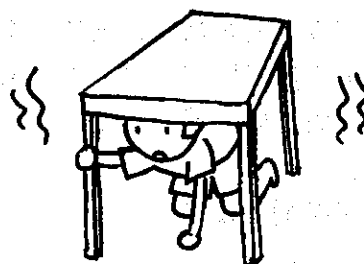


## II 地震がきたら

### 「グラッときたら！身の安全」

#### 1. まず身の安全を守る

- テーブルの下に隠れるなどして、落下物および倒れてくるものから身を守ります。
- とっさの時は座布団やオーバーなどで身を守ります。
- 家具のそばからできるだけ離れましょう。
  - ・家具が倒れたり、引き出しが飛び出してきたりして、圧死したり、ケガをするケースが多く見られます。
  - 日頃から家具を固定するなど、対策をたてておきましょう。



- 就寝場所は必ず落下物、転倒物の危険性のないところを選びましょう。寝ているときは、無防備であり、とっさに身を守る動作は不可能です。(阪神大震災の時は、死者の7割が圧死しています)

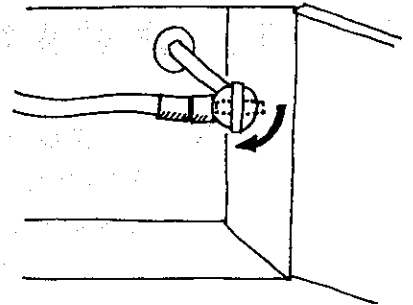
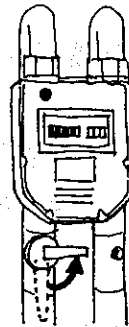
#### 2. あわてて外に飛び出さない

- 「地震だ。それ避難」は正しくありません。大揺れしただけではその必要はありません。あわてて外へ出ると、建物の上部からの落下物でケガをすることがあります。
- 後に続く余震に備えて、火災の発生やケガ防止のための対策を図ることの方が大切です。
- 当マンションは昭和56年の新耐震基準に基づいて建てられています。
- 倒壊や火災の拡大など、危険が迫っていると判断したときに避難します。

### 3. 火の始末

<ゆれが落ち着いたら>

- 小さな揺れでもすぐ火の始末をします。
  - ・「まだ消さなくても大丈夫」ではダメ。
  - ・グラッときたら、とにかく火を消します。
  - ・炎の出していないアイロンも、煙草の火も、忘れないで消します。



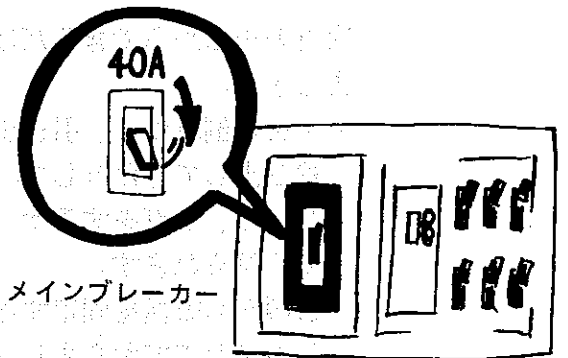
- ガスを消します。

- ガスの元栓を閉めます。

ガスの元栓は、台所ガスコンロの下および玄関外のメーターボックスの中にあります。

  - ・当マンションは、大きな地震では自動的にガスの供給がストップし、火が消えるようになっていますが、そのままにしておきますと、ガス漏れ、火災の危険が出てきます。

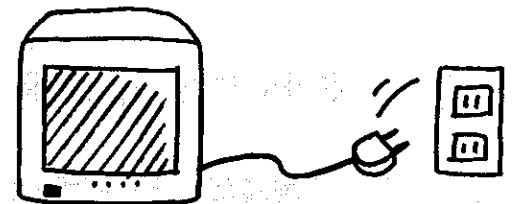
必ずガスの元栓およびガス器具の栓を閉めてください。



- 電気のメインブレーカーを切ります。

- 電気製品のコンセントを抜きます。
  - ・阪神大震災のとき火事になったのは、避難した後のガス漏れや、電気の供給が再開された後のテレビ等のコンセントからの出火が多かったといわれています。

コンセント等を必ず抜いてから避難しましょう。

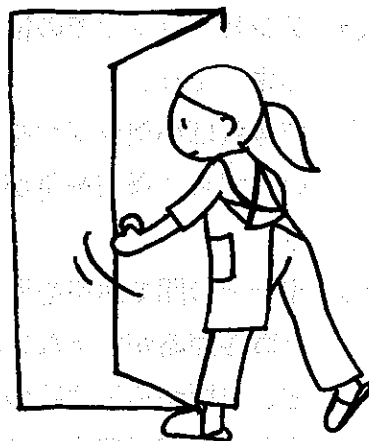


### 4. 万一、出火したら

- 119番、管理センター（非常ボタンを押す）へ通報してください。
- 大声で隣近所に知らせ、手分けして初期消火に全力をあげましょう。
- 天井に火が燃え広がったら、または煙が室内に充満したら、直ちに避難を開始します。窓、玄関ドアは必ず閉めましょう。

## 5. 非常脱出口を確保する

- 玄関ドアを開けます。
  - ・地震の揺れで玄関ドアが開かなくなることがあります。
  - 玄関ドアを開けて、脱出口を確保しておきましょう。



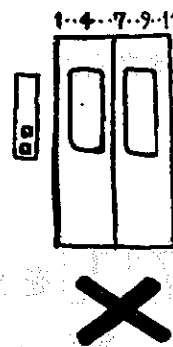
- 地震の揺れで玄関ドアが開かなくなったら、バルコニーへ出て仕切り板を破ります。バルコニー床に避難ハッチのある場合は、ハッチを開けてはしごを出します。

- 非常持出袋を素早く取り出し、ヘルメットをかぶって避難します。避難経路は資料のとおりとなっています。（その時の状況に応じて、臨機応変に安全と思われるルートを選んでください）

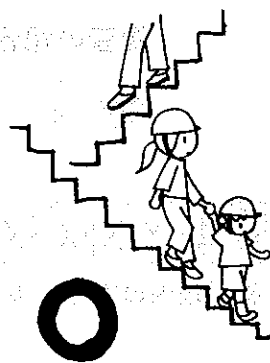
- 避難の前にはしておくこと。

- ① ガスの元栓を閉める。全てのガス器具の栓を閉める。
- ② 電気のメインブレーカーを落とす。
- ③ 電気製品のコンセントを抜く。
- ④ 水道の元栓を閉める。（メーターボックスの中）

- エレベーターは動いていても使ってはいけません。途中で止まったり、エレベーターの中に閉じ込められる危険性があります。必ず、階段で避難してください。



- 履物はかかとの低い靴などを履きましょう。かかとの高い靴やサンダル履きは危険です。また、底の硬い靴が安全です。



- エントランスの出口の所では建物の上部からの落下物に充分注意し、外へ出たらすみやかに建物から離れましょう。

- 第一次避難場所は、セソールパーク・人工芝広場です。避難したら、避難誘導者の指示に従ってください。



## 6. 外出中に大災害にあったら

- テレビ・ラジオでの情報や交通機関等から発表される状況を的確につかむようにしましょう。
- できれば小型ラジオを常に携帯し、正確な情報の入手に努めましょう。
- いたずらに帰宅を急がなくて、災害が落ち着くまで公共の避難場所に移動しましょう。
- 家族との間で連絡を取り合い、安否の確認をしましょう。電話がつかないなど直接連絡ができない場合には、少し離れた親戚や友人宅等を連絡拠点にするなど、日頃から災害時の連絡方法を決めておきましょう。  
また、災害用伝言ダイヤル『171』の活用も有効です。

### 災害ダイヤル『171』の利用方法

『171』をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。提供開始や録音件数等、利用条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

伝言の録音方法	伝言の再生方法
<b>171</b> をダイヤルします	<b>171</b> をダイヤルします
▼ ガイダンスが流れます	▼ ガイダンスが流れます
録音の場合 <b>1</b>	再生の場合 <b>2</b>
▼ ガイダンスが流れます	▼ ガイダンスが流れます
<b>044-XXXX-XXXXXX</b>	<b>044-XXXX-XXXXXX</b>
被災地内の方も、被災地外の方も、被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。	

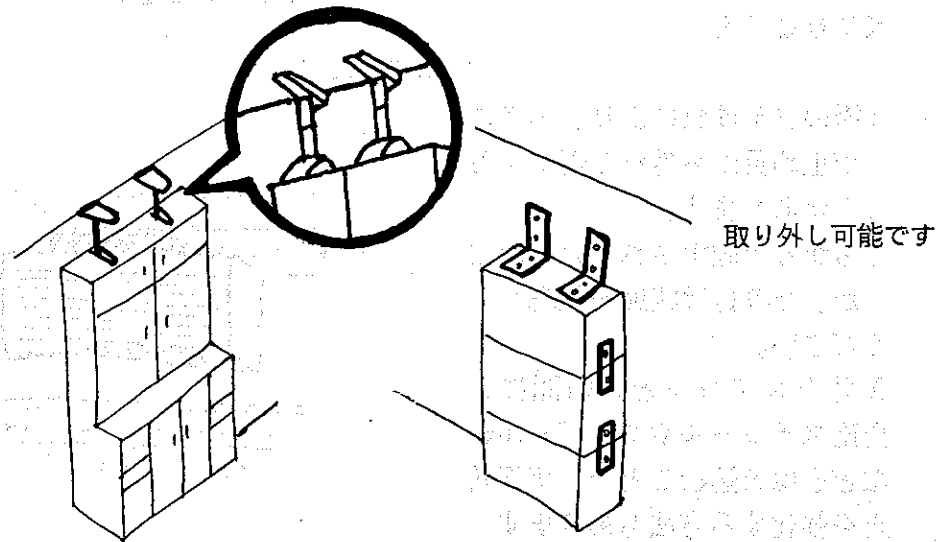
\*録音された伝言は、被災地の方の電話番号を知っている全ての方が聞くことができます。聞かれたくないメッセージを録音する場合は、あらかじめ暗証番号を決めておく必要があります。設定方法は、NTTまでお問い合わせ下さい。

### Ⅲ 日頃の備えが大切

## 「部屋の安全を確保しよう」

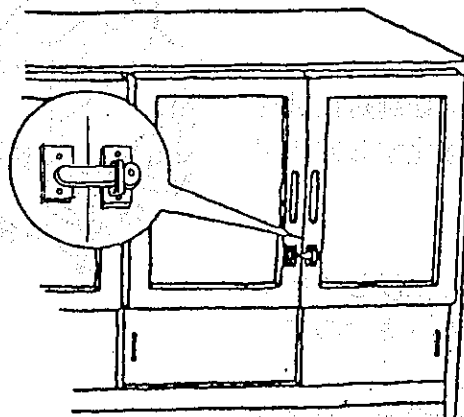
#### 1. 家具をしっかりと固定

- 市販の突っ張り固定家具やL型金具などにより壁・柱へ固定したり、家具と天井の間に衣装ケースやダンボールなどを隙間のない様にはめ込むのが一般的ですが、天井や壁の構造・部材などの強度に注意して行う必要があります。



#### 2. 開き戸タイプの扉は、左右を連結

- 左右を止め金具で連結し、中のものが、飛び出すのを防いでください。

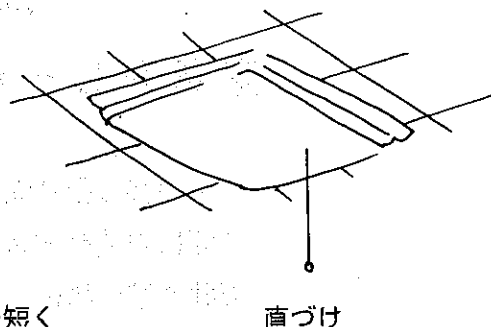
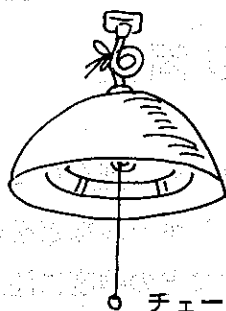


- 阪神大震災では、タンスや重量物の下敷きになってケガや圧死をするケースが多数報告されています。可能であればタンスを一つの部屋にまとめておいたり、タンスのある部屋では寝ないよう心がけてください。

### 3. 落下の恐れのあるものには十分な予防措置を

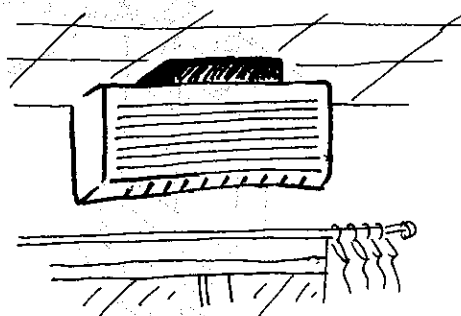
#### [照明]

- 転倒するタンスが照明器具をひっかけ落下させる場合があります。天井に直づけの照明器具にするか、チェーンを短くしてゆれを少なくするようにしてください。また、蛍光管そのものの落下を防ぐことも考えなければなりません。



#### [エアコン]

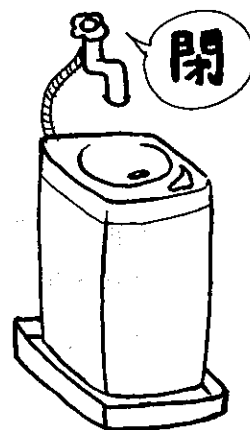
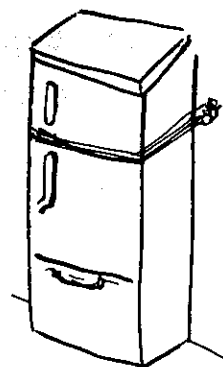
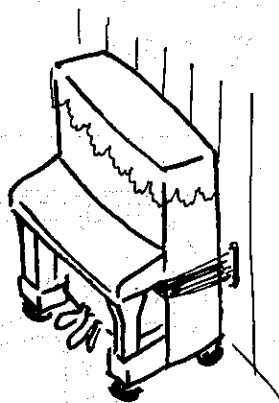
- 地震のタテゆれにより、エアコンが止め具から外れて落下することがあります。しっかりと固定されているかどうか、取り付け状態を確認してください。天井とエアコンとの隙間に、発砲スチロールやダンボール箱などをはめ込むことで、落下防止を強化する方法もあります。



### 4. 重いものも、動き出さないように固定

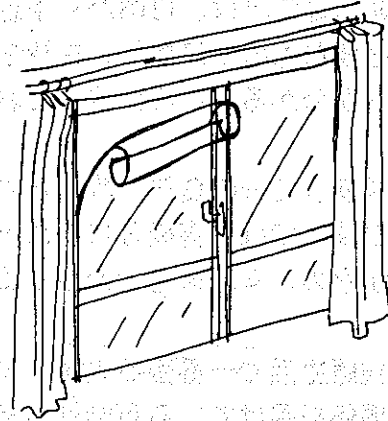
#### [ピアノ] ・ [冷蔵庫] ・ [洗濯機]

- ピアノ線や丈夫で強力なテープやベルトで、しっかりと補強してください。
- ピアノにはピアノ転倒防止具を取り付け、より強化する方法があります。
- 洗濯機は、倒れて水浸しになると感電の恐れがありますので、注意が必要です。また、全自動洗濯機は、水道との接続部が外れたときに浸水などの二次災害となりますので、使用するたびに蛇口を閉めるよう心がけましょう。



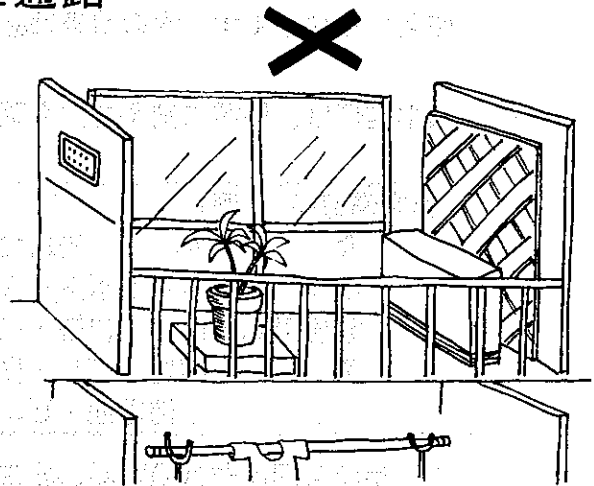
## 5. ガラスの散乱を防ぐために

- 阪神大震災では、バルコニー側の窓ガラスがテレビ等の重量物があたって破損するという場合が多かったようです。そのためにも、テレビ・食器棚等の固定や配置には、日頃から注意を払いましょう。
- ガラスと棚などのガラス部分には、透明の飛散防止フィルムなどを貼るようにしましょう。



## 6. バルコニーは大切な避難通路

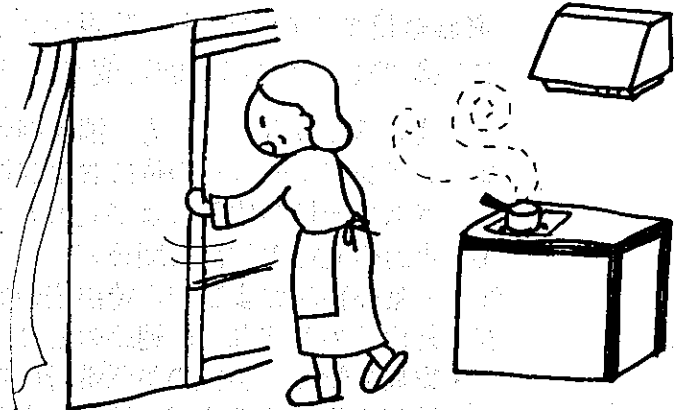
- 避難通路の確保のためにも、隣戸との境のパーテーション(仕切り板)前や、避難ハッチの上下・周囲には、物を置かないようにしてください。



- 地震の際、バルコニーに置いてあるものが階下に落下して、思わぬ事故を招くことがあります。バルコニーの端には物を置かないようにしてください。

## 7. ガス漏れしたら

- ガスが漏れた場合、換気扇を回すと火災になる恐れがあります。換気扇は回さないで、まず、窓を開けましょう。



## 8. 非常備蓄品、非常持出袋を用意する

- 非常備蓄品は、日頃から用意しておきましょう。また、その一部（生活に最低限必要なものや貴重品）を持ち出しやすい状態（非常持出袋）にして、家族の誰でも分かるところに置いておきましょう。
  - 最低3日分の食料・飲料水および簡易トイレ(注)を用意しておきましょう。川崎市では災害後3日をめどに食料等を用意できる体制をとっています。断水の時、自宅で使用するための簡易トイレも必須です。
- (注) 避難生活で一番困るのがトイレです。建物は損傷がなくても、給水管・排水管が損傷を受けている可能性があり、当分は水を使うことができません。室内で使える簡易トイレは必ず用意しておきましょう。簡易トイレの見本（パンフレット）は管理センターに用意してあります。
- 当マンションは電気揚水ポンプ式の給水システムのため、電気が止まると水道が使えなくなります。水の準備は必ずしておきましょう。
  - 懐中電灯は、停電に備えて柱や壁に2ヶ所以上に置いておきましょう。

### 非常備蓄品 [例]

- ・食料：乾パン・缶詰など（最低3日分）
- ・飲料水：ペットボトル入り水・ポリタンクなど（最低3日分）
- ・救急用品：傷薬・包帯・三角巾など
- ・その他：簡易トイレ・貴重品(現金)・懐中電灯・携帯ラジオ・予備電池・ビニール袋・ヘルメットなど

- ① 毎年1回は非常備蓄品、非常持出袋の内容をチェックし、不足品の補充、賞味期限、使用期限の切れたものの取替えなどを行ってください。
- ② ポリタンクに備蓄した水については、数日ごとに取り替えておきましょう。

## 9. 家庭防災会議の定期的開催

- 家族全員でこの『防火・防災マニュアル』の内容の周知徹底、実施を図るとともに定期的(1ヶ月に1回程度)に、次の点について確認しておきましょう。
  - ① 消火器の位置、使い方、消火剤の取替えなど
  - ② メインブレーカーの位置および切り方
  - ③ ガスの元栓の位置および閉め方とマイコンメーターの復旧のしかた
  - ④ 水道の元栓の位置と閉め方
  - ⑤ 非常備蓄品および非常持出袋の保管場所と取替え
  - ⑥ 外出時の家族間での連絡のとり方
    - ・家族の学校、会社の電話番号(定期入れ、名刺入れ、財布等に入れておく)
    - ・情報を集約する親戚(関東地方以外)と電話番号
    - ・災害用伝言ダイヤル『171』の使用方法